



大久保病院だより

親知らずとは？

歯科口腔外科 三上 眞

親知らずとは、上顎・下顎の第三大臼歯のことを指します。状態として、通常に生えている場合や半分埋まっている場合、完全に埋まって見えない場合があります。近年は顎の大きさが小さくなっている傾向があり、埋まっている場合が多いようです。そのような上顎・下顎を問わず歯肉に埋まっているものを埋伏智歯といます。

生え方によっては歯磨きが困難となり、その結果として虫歯や歯周病になりやすい状況となっています。また、清掃不良によって親知らずの周りの歯肉が腫れてしまい、痛みを伴っている状況を智歯周囲炎と呼びます。

● 親知らずを抜いたほうがよい場合は？

- ・ 虫歯の治療が困難な状態になってしまっている
- ・ 歯磨き等による清掃が難しい状態にある
- ・ すでに化膿した状態であったり、化膿を繰り返している
- ・ 放置しておくくと歯並びを悪くしたり、歯列矯正等に影響してしまう

上記に該当する場合は、抜歯をしたほうがよいと思われます。



● 抜かなくてもよい場合は？

- ・ 正常に生えていて、親知らず自体が咬む機能を持っている
- ・ 顎の骨の中に完全に埋まっており、レントゲンで問題がなく、悪影響がないと判断される

上記の場合には、抜歯をしなくても良いでしょう。

● 埋伏智歯（歯肉に埋まっている親知らず）の抜歯方法

埋まっている親知らずを抜く場合は、局所麻酔（歯肉への注射）をして、歯肉の切開・周りの骨の削去・親知らずの分割（歯を割ります）・切開した歯肉の縫合（縫い合わせます）が必要になります。場合によっては、入院が必要なこともあります。

● 患者さんをお願いしたいこと

術後は痛みや腫れを伴い、また種々のリスクもありますので、抜歯の前に十分な説明をさせて下さい。

大久保病院ではその他口の中の疾患も診療しております。親知らず等診察を受けられる際は、電話でご予約の上お越し下さい。

リハビリテーション科紹介

言語聴覚士について.....

当院ではリハビリテーション科に現在4名の言語聴覚士が在籍しています。入院患者さんを対象に、主に脳血管疾患の後遺症である失語症（聞く・話す・読む・書く等がうまくできない）、構音障害（呂律が回りにくくはっきり話せない）などの言語障害、高次脳機能障害（認知機能低下、記憶力低下、注意障害等）の患者さんに対して訓練を実施しております。また、摂食嚥下障害に対する評価および訓練にも力を入れており、医師の指示のもと状態に応じて嚥下造影検査にて嚥下機能評価も行っております。

言葉や高次脳機能障害に対する訓練は個室で実施しており、集中して取り組むことができる環境を整えております。摂食嚥下障害に対する訓練は、機能訓練だけでなく、一人ひとりの患者さんに適した姿勢・食べ方・食事の形態の調整など、安全に口から食べていただく方法をご提案しております。必要に応じて、家族の方や在宅で関わる介護者の方に向けて、介助方法等のアドバイスをさせていただきます。



ICUについて

ICUとは、極めて重症の患者さんの管理を専門的に行う病棟で、「集中治療室」とも言います。

呼吸・循環・代謝その他の重篤な状態にあるまたは重篤な状態になる可能性のある患者さんを24時間体制で管理し、より効果的な治療を目指すことを目的としています。様々な病態及び状態の変化に迅速に対応するため、高度な医療機器を取り揃えています。

入院患者さんには、主治医と看護師を中心としたスタッフによるカンファレンスを毎朝行い、連携を取り、より良いチーム医療を目指しています。一般病棟との違いとして、重症で高度医療を行うため、面会時間の制限がありますので、ご了承下さい。

一方、HCUは準集中治療室（集中管理病棟・重症患者病棟）で、こちらも高度で緊急を要する医療を行うための病室ですが、ICUよりも軽症の患者さんが対象となります。



公益財団法人 東京都保健医療公社

大久保病院

〒160-8488

東京都新宿区歌舞伎町2-44-1

TEL 03-5273-7711(代表)

URL <http://www.ohkubohospital.jp>

